

## 保健医療分野への質問

	意見	区の方考え方
1	子宮頸がんや乳がんの検診は、仕組みがあっても受診率が低い状況にある。こうした検診に関して、既存の方法にとらわれずに有効な方法で周知して欲しい。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
2	健康危機管理対策の予防接種に関して、接種歴がわからず、結果的に予防接種を受けていない人たちに対してどのようにアプローチするか検討する必要があるのではないかと。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
3	自殺対策に関して、行政と接点の少ない方にも積極的にアプローチして欲しい。	自殺対策に関しては、全庁的な取組みとして様々な分野から周知や働きかけを図っていきます。今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
4	自殺対策に関して、子ども若者への支援とあるが原因をどのように解明し、解決を図っていくのか。子どもが教育で取り残されると、自分や家族だけで問題を抱え込んでしまうのではないかと危惧している。	自殺対策については、全庁的な連携体制をとって、情報を共有しながら取組を進めることとしています。教育分野ではSOSを出せる子どもたちを育てることに取り組んでおり、今後も連携しながら進めていきたいと思っております。
5	自殺は書かれているが、メンタルヘルスの問題へ対応を図ることで、自殺を回避できると思うので、これに関する書き込みを加えた方がよいのではないかと。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
6	自殺が若い世代の死因の1位になっているのは、若い人はほかの原因で亡くなるのが少ないからだと言った医師から聞いたことがある。そのため、メンタルヘルスの取組、精神疾患のある方への支援が重要になるのではないかと。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
7	メンタルケアに関連して、ここ数年で孤独死を見るようになった。調子が悪くても救急車を呼ばない、といった心の問題が多く見受けられる。40～50代の単身世帯で、「体の管理ができていない＝心の問題が生じている」というのが増えてきていると感じる。その実態に加えて、今後増えていくという予測を踏まえて、どのような施策を考えているのか教えて欲しい。	前提として、孤独死の定義がはっきりしていません。人口動態統計で統計はとっていますが、孤独死を把握するのは実態としては難しい状況です。ただし、実感としては高齢者で増えているように思いますので、どのようなことができるか今後検討していきます。

	意見	区の考え方
8	<p>妊娠期から検診まで相当のお金がかかっている印象である。若い家庭が子どもを育てようすると、準備やある種の覚悟がいると思った。出産に関して様々な補助があることは分かったが、目黒区は出生率が低いとの話もあるので、もう少し手厚くてもよいのではないか。目黒区の人口増加につながるような検討をしてほしい。</p>	<p>今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
9	<p>妊娠から出産まで、区内で完結できないことが問題のようにも感じる。施策的に将来、開業医を含めた産科医の育成を求めていくということもあるのではないか。</p>	<p>いわゆる「里帰り出産」を希望する区民もいるため、全てを区内で完結することが不可欠とは考えていませんが、区内での出産を希望する場合、それが可能となるよう現状を把握するとともに、切れ目のない支援に努めていきます。</p>
10	<p>若年層の出産についてはどのような状況か。また、それに関連して、今後、若い世代の性教育についてどのように展開しているのか。</p>	<p>区内の若年での出産は、昨年のデータを見ると15歳未満はありませんが、15～19歳の出産は4名となっています。中には、妊婦健診を受けずに出産を迎えるケースもありますが、相談しやすい体制を整えることで、早めに相談してもらえるよう努めてまいります。 若い世代への性感染症教育について、報道で梅毒が増えているといったことも踏まえると、若い世代から教育することが非常に重要だと捉えています。性教育は学校教育の中でも行われていますので、今後は、教育分野へ働きかけ、性教育の場を拡充する必要があると思います。</p>
11	<p>国際的にはHACCP(ハサップ:食品事業者の衛生管理基準)は当たり前になっているが、日本の食材は基準をクリアしていないものがある。これは生産者の問題であるが、国際基準をクリアしないと、地域に来る方への食材提供にも関わってくるのではないか。</p>	<p>今後、食品の輸出拡大が予想される中で、HACCPに沿った衛生管理の義務化に伴い、全ての食品事業者に対して技術的支援及び的確な検証が行えるよう、いただいたご意見を参考に施策を展開していきます。</p>
12	<p>HACCPは食品事業者(食品の製造・加工・調理・販売等)の問題ではあるが、まず区が他自治体に先駆けて先進的な衛生管理、事業者への周知、浸透、取組の定着、持続性を確保し、行政による的確な外部検証体制の構築を急ぐべきではないか。</p>	<p>いただいたご意見を参考にさせていただき、全ての食品事業者がHACCPに沿った衛生管理を行うよう事業を実施していきます。</p>
13	<p>公衆衛生の基本的な取組として、感染症やHIVへの理解を含めて教育がなされている。今、医療の進んだ国からだけでなく、そうでない国からも入国する人はいる。国全体の問題でもあるが、地域全体でどのように取り組んでいくのか。</p>	<p>今後、海外からの旅行客や外国人住民が増加していくことが予想されており、海外から様々な感染症が持ち込まれることが危惧されています。こうしたことから、国における「水際」の対策はもちろんのこと、地域での感染症対策も重要になってくると考えます。</p>

意見		区の方考え方
14	結核は世界では「普通の感染症」であり、日本の結核り患率の低さは特殊であると認識している。そこで、①感染症情報を速やかに共有する区横断的体制の構築、②感染拡大防止体制の構築、③最新知見・知識の学習体制構築で誤まったSNS情報などの拡散を防止する体制の構築を検討してはいかがか。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
15	課題解決の方向性の中で、唐突に結核のことだけ言及していることに違和感がある。感染症は梅毒等様々あり、それらへの対応や予防の普及啓発など、必要なものは他にもあるのではないか。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
16	子育て世代包括支援センター事業により、母子保健と子育て支援の「縦割り」の壁の解消が図られることを期待する。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
17	課題解決の方向性の10年後について、ここはもっと踏み込んだ内容が欲しいと思う。特に「保健・医療・福祉等の連携による妊娠期から子育て期にわたる支援体制の充実」については、1年後でもできる内容ではないか。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
18	課題解決の方向性の中の健康づくりの部分について、多くの記述が「自分自身の健康に気を付けてください」という内容となっているが、例えば献血に行くなど「自分が動くことで他人の健康づくりにつなげていく」、そのような取組を区で推奨するという観点も大切ではないか。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
19	区内の医療連携体制(病院、クリニック、医師会等)について、長期計画に盛り込んでほしい。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
20	主な成果、実績に、今年度開始した産後ケア事業実施について追加すべきではないか。	ご意見のとおり、今年度、訪問型の産後ケア事業を開始したところです。今後も産後ケア事業の充実に向けて検討を進めてまいります。